



大津画像カンファレンス 疾患・病態にせまる画像診断 腹部救急疾患



監修：小林久人

編著：松木 充

市場文功

学研メディカル秀潤社

2016年9月刊行

B5判 400ページ

定価：本体 7,500円（税別）

本書は、読影業務終了後に毎日、部長の小林久人先生を師範として大津赤十字病院放射線科で行われている熱い症例検討会の「一端に触れていただき、画像診断の楽しさ、奥深さ、多様さ、自由な発想を感じていただく」ために書かれています。そして師範代ともいべき松木 充、市場文功両先生が小林部長の還暦を祝して発刊されるよう提案されて実現した、心温まる名著です。内容は3章に分かれており、いずれにおいても、「えっ?」「へー、そうなのか」「こんなこともあるんだ」「気が付かなかったなー」「恐れ入りました」の連続です。

第1章「画像診断トレーニング」は基礎41症例と実践34症例、計75症例で構成され、「診断してみなさい」という形式で、フィルムリーディングセッション

で回答者にあてられたと思えばピッタリです。各症例にはもちろん、年齢、性別、主訴、現病歴や、検査データが提供されていますが、それだけでなく「よく落ちるピットフォール。今一度、気を引き締めて!」「所見をひとつひとつ拾っていくと、特定の疾患にたどれるよ」「目先の疾患の診断だけに留まらずに、その原因を探ろう!」といったヒント、ガイドライン、あるいは戒めともいべき「金言」が添えられています。

第2章「プロセス」は7症例からなり、各症例における読影のプロセスが逐一記されており、エキスパートがどのように考え、どのような鑑別診断を経て結論に達するのかわかるまたとない機会を与えてくれます。

第3章「ディスカッション」は7症例を題材に、放射線科医と研修医の診断に至るまでのやり取りが描かれており、大津赤十字病院における症例検討会に参加しているような臨場感に溢れています。

全89症例は基本的な症例、教育的な症例、症例報告に値するような稀有な症例など様々な「興味の尽きない」症例で、いずれも「一筋縄ではいかない」代物ですが、丁寧な解説に納得し、知識量がグーンと増加します。これから放射線診断専門医を目指す方、専門医であるがリフレッシュが必要な方には、ぜひ読んでいただきたい一冊です。そして「読影室に必ず置いてある一冊」になると確信しています。

(健康科学大学副学長、山梨大学名誉教授 荒木 力)

